

首都圏外郭放水路利活用懇談会議事録

1. 開催概要

日 時：2017年9月26日（火）14：00～16：00

場 所：庄和排水機場（龍Q館）会議室

2. 議事次第

- 1 開会
- 2 江戸川河川事務所長挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 議事
 - (1) 首都圏外郭放水路利活用懇談会の開催趣旨について
 - (2) 座長の選任
 - (3) 首都圏外郭放水路利用の現状等について
 - (4) 春日部市の現状等について
 - (5) 首都圏外郭放水路見学会視察
 - (6) 意見交換
- 5 閉会

3. 議事録

1 開会

佐々木副所長：それではお時間となりました。ただ今より首都圏外郭放水路利活用懇談会を開催いたします。本日はお忙しい中、本懇談会にご出席いただきましてありがとうございます。私、本日司会を務めます事務局江戸川河川事務所の佐々木でございます。よろしくお願いたします。

最初に報道関係の方々をお願いがございます。本懇談会の撮影、この会議室においては冒頭の委員の紹介までに限らせていただきます。その後に現地見学等がございます。その時に撮影は自由になってございますけれども、一般の見学者の方もいらっしゃいますので、ご配慮いただければなと思います。よろしくお願いたします。

それでは開会に当たりまして、懇談会の主催者である江戸川河川事務所長よりごあいさつを申し上げます。

2 江戸川河川事務所長挨拶

金澤事務所長：江戸川河川事務所の事務所長の金澤でございます。事務局を代表しまして一言ごあいさつを申し上げます。本日はご多用の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また平素から国土交通行政にご協力、ご支援をいただきまして改めて感謝を申し上げます。ここ春日部市を含む中川・綾瀬川流域におきましては、大雨のたびに浸水

被害が発生して抜本的な規制対策が求められておりました。

その切り札としてこの首都圏外郭放水路が整備され、平成 18 年に完成、浸水被害の軽減に大きな効果を発揮しているところでございます。またこの放水路を構成する施設のうち調圧水槽につきましては、地下神殿と呼ばれるなど話題になっておりまして、事務所としても積極的に見学を受け入れております。

現在 1 年間に約 3 万 5,000 人の方にご来場いただきまして、見学者の総数が通算 40 万人を超えております。国内外のメディアでも取り上げられることが多く、国交省が管理する施設としては見学者が多い施設の 1 つとなっております。

他方、政府全体としましても、観光振興や地方創生の観点から迎賓館など魅力ある公的施設の一般開放に努めておりまして、この首都圏外郭放水路につきましても、地元の春日部市さんと連携しまして、さらなる開放ができないかと考えまして検討を開始したところでございます。

この懇談会はその検討のキックオフとして開催するものです。委員の皆さまにはそれぞれご専門のお立場から、首都圏外郭放水路の積極的な利活用や広報に関して、忌憚のないご意見を頂きたいと考えております。以上簡単ではございますが冒頭の開会のあいさつとします。本日はよろしく申し上げます。

佐々木副所長：次に議題に入ります前に、配布資料の確認をいたします。お手元にまず A4、1 枚ものが 3 枚です。これは先日の記者発表資料の添付資料を再配布したものすけれども、議事次第と開催趣旨とそれから委員の一覧という 3 枚があります。

それから説明資料としてパワーポイントを印刷したもの、こちらが資料の 1 の開催趣旨、それから資料の 2 の利用の現状等について、それから資料の 3 として春日部市の現状等についてというようなことで、配布をしております。不足等があれば事務局へお申し付けください。よろしく願いいたします。

3 委員の紹介

佐々木副所長：続きまして本懇談会の委員の皆さまを名簿順にご紹介いたします。春日部市長、石川良三様。

石川委員：春日部市長の石川でございます。よろしく申し上げます。

佐々木副所長：跡見学園女子大学観光コミュニティー学部准教授、篠原靖様。

篠原委員：篠原でございます。どうぞよろしく願いいたします。

佐々木副所長：株式会社 NHK エンタープライズ制作本部エンターテインメント番組エグゼクティブプロデューサー、関山幹人さま。

関山委員：関山と申します。どうぞよろしく願いいたします。

佐々木副所長：東京理科大学理工学部土木工学科教授、二瓶泰雄様。

二瓶委員：二瓶と申します。よろしく申し上げます。

佐々木副所長：株式会社ジャーマン・インターナショナル代表取締役、ルース・マリー・ジャーマン様。

ジャーマン委員：ジャーマンと申します。どうぞよろしく願いいたします。

佐々木副所長：よろしく願いいたします。続きまして議事に従いまして進行いたします。

4 議事

(1) 首都圏外郭放水路利活用懇談会の開催趣旨について

佐々木副所長：最初に首都圏外郭放水路利活用懇談会の開催趣旨について説明を、司会からいたします。資料の 1 を手元にご準備いただければと思います。画面にも資料を映しますけれども、資料の 1 に沿って説明します。

まず 1 ページ目です。首都圏外郭放水路の施設概要について簡単に説明します。この外郭放水路は埼玉県東部春日部市に建設された世界最大級の地下河川というようなことで、先ほど所長のあいさつにもありましたけれども、世界各国のメディアでも取り上げられるというようなことで、世界的にも注目されている施設でございます。

施設といたしましては国道 16 号の地下 50 メートル、ここに延長 6.3 キロメートルのトンネルの河川、地下放水路を構えてございます。途中大小 5 つの河川、水路、こちらから洪水を取り込んで江戸川に流すとそれによって浸水被害を解消、軽減している施設というふうなことでございまして、16 号沿線の春日部市の企業立地にも、微力ながら貢献しているのではないかと自負しているところでございます。

次のページに開催の趣旨の概要を書いております。明日の日本を支える観光ビジョン、これは安倍総理が議長となって取りまとめをしたビジョンでございますけれども、この中の柱の 1 つに、地方創生の礎に魅力ある公的施設を広く国民、そして世界に開放というふうなことが上げられてございます。

この魅力ある公的施設の 1 つとして、この首都圏外郭放水路がリストアップをされているというふうなことを契機といたしまして、この首都圏外郭放水路のインフラツーリズムへのさらなる活用を検討してまいりたいというふうなことでございます。

江戸川河川事務所といたしましては、当然この放水路の役割を多くの人に知ってもらいたい、そのためには多くの人に来ていただきたいという思いがございます。一方でそのために今以上に職員の負担が無尽蔵に増えたり、あるいは経費がものすごくかかってしまうというのは避けたいといったことがございます。

そういった観点も踏まえまして、この懇談会において皆さま各委員からご意見をちょうだいして、今後のことを考えてまいりたいというふうなことでございます。

次の 3 ページ目、少しテキストで長く打ってございますけれども、補足として加えるところが下の部分です。東京オリンピック・パラリンピックに向けたインバウンド需要の取り組みや地元春日部市の観光・シティセールスの面でも期待が高まっていると。こういった観点も踏まえて本日委員の皆さま方からご意見をちょうだいであればというようなこと

で考えてございます。

次の4ページ目には少し規約的なことを並べてございますけれども、3番の検討事項といたしまして、新しい施設開放の姿とその実現に向けた方策、こちらについてのご意見をということでございます。

それから4番構成および運営ですけれども、江戸川河川事務所が主催しまして、この本懇談会には座長を置きたいと思っております。その座長については委員の皆さま方の互選によって定めたいと思っておりますので、よろしければ後ほどまたお願いしたいと思います。

5ページ目につきましては議事の公開のことについて書いてございますけれども、原則公開、やむを得ない場合を除いては公開としていきたいと思っておりますので、その辺はご了承いただければと思っております。

6ページ目以降は参考資料となっておりますけれども、7ページのところに先ほどの、明日の日本を支える観光ビジョンの主要施策の一覧が載っております。その中の一番上に魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放というものがございます。

次の8ページ目からは国の施設の開放等について細かく施設ごとについて書いてございますけれども、ずっとページが進みまして11ページ目、最後から2ページ目になりますけれども、赤で囲ってございます。首都圏外郭放水路もこの1つとしてリストアップされているというようなこと。

ここの記載の内容につきましては、このビジョンが取りまとめられた平成27年度をベースに書かれてございますけれども、ここで従来月曜日から金曜日までの一般の見学を土曜日も増やしていきましようというようなことで、28年の6月から土曜日も始めて、今年度は月2回土曜日も見学を行っているという現状でございます。これを踏まえて本日また意見を重ねていただければなと思っております。

このような趣旨で懇談会を開催したいと考えております。皆さまご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは開催趣旨についてご賛同いただきましたので、この趣旨に従って進めてまいりたいと思っております。

(2) 座長の選任

佐々木副所長：続きまして議事の2に移らせていただきます。先ほども少しお話をさせていただきました座長の選任でございます。座長の選任につきましては委員の皆さま方の互選で定めたいと思っております。皆さまご意見はございませんでしょうか。

二瓶委員：はい。

佐々木副所長：二瓶委員お願いします。

二瓶委員：篠原委員を座長に推薦したいと思います。

佐々木副所長：ありがとうございます。篠原委員を今推薦する声がありましたが他にいませんか。(委員から賛同) それでは篠原委員、座長をよろしく願いいたします。それでは

篠原座長のほうから先に一言頂ければと思います。

篠原座長：座ったままでよろしいでしょうか。非常に素晴らしいご見識の皆さまがたくさんおられる中で、座長を仰せつかりました篠原でございます。身が引き締まる思いでございます。

この外郭放水路が世界に誇れる日本のインフラということ、そしてまた観光立国を目指す日本の今の状況の中で、まさに日本の顔として世界に発信できるように、皆さんのお力で盛り上げていければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐々木副所長：ありがとうございました。では以降の議事につきましては開催趣旨に従いまして篠原座長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(3) 首都圏外郭放水路利用の現状等について

篠原座長：それでは本日の予定でございますけれども、この後は資料 2、それから資料 3 のご説明を賜りまして、その後に今度は現場の視察会を行うということで伺っております。その視察会が終わりました後、現物を見ながらこの意見をどのように皆さんのアイデアで盛り上げていくか、こういうことの流れでいこうということでございます。

それではこのまず資料 2、この現状につきましての部分のご説明をお願いしたいと思います。

金澤事務所長：それでは江戸川河川事務所長、金澤からご説明したいと思います。資料 2 の 1 ページ目をご覧ください。これは関東地方整備局のホームページの中にインフラツーリズムというコーナーがございまして、そこから抜粋しました。インフラツーリズムの代表としてハッ場ダムなどといった施設と並んで、この首都圏外郭放水路がピックアップされているところでございます。

2 ページ目ですが、拡大に向けての取り組みということで、先ほど副所長から話がありましたように、土曜日見学会を試行的に順次拡大させていただいているところでございます。その他に 1 日 3 回、午前 1 回、午後 2 回の見学会を開催していますが、1 回当たり 25 名を、最終回につきましては 2 倍の 50 名に増やしています。

50 名にすると、これから見ていただく展示室に入り切れないということで、1 階に新たに簡易スペースをつくりまして、ここで簡単な説明をしてから現地に行っていただくというふうな取り組みをしているところでございます。

3 ページ目です。その他ハード的な取り組みとしまして駐車場が 16 台しかなかったということで、倍の 34 台に昨年増やしました。それからトイレも人数が増えてくると足りなくなってきましたので、今この建物の外に新たな新設のトイレをまさしく建築中でございます。その他地底体感ホール、これもかなり老朽化して映像が途切れたりしていたので昨年度改修しました。

さらにドローンで施設内の映像、これはトンネルそれから立坑、調圧水槽、全てをドローンで飛ばして、その映像をホームページでも見られますし、この施設でも見られる

ような取り組みをしております。

4 ページ目です。ではこの施設の利用の状況ですが、冒頭で申し上げましたとおり、現在は約 3 万 5,000 人年間に入っています。当初は 2 万人ちょっとだったのが着実に増えているところでございます。

これは来館者ということで、いわゆる案内、調圧水槽に見学に入っていく人数ではございませんので、調圧水槽の見学につきましては今、年間 1 万 8,000 人強をご案内しているところでございます。この数も先ほどの 25 名から 50 名に増員ということで、確実に増えているところでございます。

5 ページ目です。見学に来られた方に必ずアンケートを答えて今いただいております、一番上が予約がなかなか取れない、特に土曜日に試行で始めましたが、4 週間前の 0 時からインターネットで受付をしますが、1 時間もたたないうちに 50 名の枠が埋まってしまうぐらい人気があるということで、それはやっぱり 1 つ皆さんが不満に思っているのかなと。

それから休日の開催、今回は土曜日に開催して非常に人気があるということからも、やっぱり土日ですね、ぜひ見学させてもらいたいという要望が上がっております。さらにせっかくの施設なのでもう少し付加価値を付けても有料にしても全然問題ないのではないのという意見とか、さらにその調圧水槽だけじゃなくて立坑というのも一般の方には開放していませんので、ぜひ見せてもらいたいなという意見も頂いています。

加えてカフェとかといった飲食、これはやっぱり必須だよな、こんな意見も頂いているところでございます。あと一番ネックなのが公共交通機関が、ここまでバスが数が少ないので、それがもっとあるといいねというご意見も頂いております。

6 ページです。インバウンドについてですが、昨年度来場者数で見ますと約 8%、1 割弱が外国人となっています。ということでことしの 6、7、8 と、じゃあ国別にどうなんだというさらに詳細なアンケートを取ったところ、半分以上が台湾、中国ということです。タイとかを含めてもかなりアジア系が多いなという感じを受けています。

それに先立ちましてわれわれの取り組みとしまして、英語版とか中国語も繁体字・簡体字それぞれのパンフレットをつくって配布をさせていただいているところでございます。

7 ページです。外国人の方にも英語で同じくくりで日本人と同様にアンケートに答えてもらっております、どうやってこの施設を知りましたかということで、インターネットそれから口コミですね、そういったのが非常に多いと結果が出ております。

ということでアンケートの一部に英語でちゃんと SNS とか感想を投稿してねという呼び掛けをちゃんと記載していますので、そんなのを見てやってくれているのかなと思ったりしております。

8 ページ目です。取材の状況ですが、国内外のメディアでご紹介されていると冒頭あいさつで申し上げましたが、だいたい数で言いますと年間問い合わせだけで昨年度を見ますと 285 件、そのうち実際に撮影が完了したのは 159 件ということで、実はうちはこの施設は職員で言いますと所長 1 人と係長 2 人の 3 名で施設をなんとか回しています。そのうち

の係長 1 人がほぼこれで終日取られているようなところでして、この辺をぜひなんとかしたいと思っていたところでございます。

9 ページ目です。じゃあこの施設は実際に本来の目的はご案内のとおり洪水調整施設です。ですからいろんな制約がございます。どのぐらいその洪水を調整しているのかということで、左上に稼働状況ということで薄いブルーと濃いブルーを書いています、両方を足していただきたい平均年 7 回ほど稼働しています。

濃いブルーというのがこの建物の地下にあるポンプを使って江戸川に水を排水した回数それから薄いブルーは逆に江戸川に水を出さずに貯留だけして、洪水が終わった後に元の川に戻してあげた回数でございます。その他右側のグラフを見て分かるとおり、だいたいこの施設が稼働するのは 4 月以降のいわゆる洪水期、特に 6、7、8、9、10 と台風、梅雨の時期に活躍をしております。ということは逆に言えばこの施設が見学できないということの裏腹でもございます。

10 ページです。この 10 ページ目は施設全体の図でございますので、後ほど見ていただければと思います。次にもう 1 枚めくっていただいて 11 ページ。これがこの庄和排水機場の 1 階の平面図ですが、グリーンで塗られている左の部分、これがエントランス、玄関から入っての受付といいますかエントランスの空間の部分、ここを一応見学できるスペースとして提供しております。

12 ページ目です。2 階につきましては展示施設とトイレ等が一般公開している施設となっております。

13 ページです。これは調圧水槽の平面図でございますが、調圧水槽はサッカーグラウンドより広い大きさを持っているのですが、これから行きますけれども地上から地下に階段を下りて、そこからほんの一部しか今のところ開放していません。

これは洪水が終わった後に泥がこの施設内に一様に堆積しまして、人が歩けるようにするためには手でその泥をかき寄せてきれいに歩けるようにしているということで、それを洪水のたびにやるというのはかなり大変ですので、施設全部ではなくてこの一部のフロアだけ見学していただくということです。

冬以降は全部施設をきれいにするので歩けますが、逆に案内役 2 人ほどで 50 名の人間を案内するととなると、どこかフラフラと行って消えていなくなっちゃうこともありますので、今はこの範囲内に限って施設を見ていただいています。

このページの一番左上にインペラとありますけれども、これから行く施設の一番壁の奥の壁の向こう側には、そのポンプの一番先端として水を吸い上げる羽根車があつて、これは特別見学会といまして、11 月 18 日の土木の日前後には特別に公開していますが、普段は見られません。ですからこんなものも付加価値的には見られるような施設の 1 つとなっております。長くなりましたが、私からは以上でございます。

篠原座長：ありがとうございました。ご質問等は特によろしいでしょうか。また後の後半でいろいろお話がお伺いできると思います。それでは今度は地元の春日部市さんの状況に

つきましてもよろしく申し上げます。池貝副市長。

(4) 春日部市の現状等について

池貝副市長：春日部市の副市長の池貝と申します。よろしくお願ひいたします。本市の観光に関する現状について説明をいたします。資料の 3 をご覧ください。表紙をめくっていただきまして 2 ページをご覧ください。春日部市は都心から約 35 キロ圏、関東地方のほぼ中央に位置しております。埼玉県東部の拠点都市として、また東京のベッドタウンとして発展を遂げてまいりました。

鉄道の駅を中心に市街地が形成されておりますが、郊外には田園が広がっておりまして、水と緑の豊かな環境を有しております。人口は約 23 万 6,000 人となっております。

次のページをご覧ください。初めにイベントについて説明をいたします。本市のイベントの特徴を一言で表しますと、市民主体のイベントということになるかと思ひます。左側の春日部藤まつり、これは市内の各地から約 60 の市民団体が集まりまして、パレードをしながら踊りやダンス、また音楽や演奏などをし、1 年間の練習の成果をここで披露していただいております。1 日で約 18 万人の方々が集まっております。

右側の大凧あげ祭りでございますが、こちらは江戸川の河川敷で 100 畳分の大凧を地元の方々で二手に分かれまして、どちらが高く上がるかを競い合っております。日頃の技術ですとかチームワークが試されるものとなっております。

4 ページです。左の大凧マラソン大会でございますけれども、これは主なコースが江戸川の堤防の上になっておりまして、景色が良く開放感があるということで、毎年約 1 万人の参加者があります。また中高生を含む 900 人以上のボランティアの方々によって運営されているということも特徴でございます。

右側の夏まつりでございますが、これは昭和 48 年に市制 20 周年を契機に、市内各地のおみこしを 1 カ所に集めてパレード形式で実施することとしたものでございます。このように 25 基のみこしが 1 カ所に集まることで全体の熱気が高まりまして、2 日間で毎年 20 万人を超えるお客さまに来ていただくことに成功しております。

次のページをご覧ください。左側のコミュニティ夏まつりでございますが、これはコミュニティ団体が、自治会が運営しておるお祭りでございますが、市民の方々のさまざまな演技が披露されております。またその祭りの締めくくりといたしまして、真ん中にありますように大凧花火大会が当日の夜に開催されます。

また右側の春日部音楽祭でございますが、こちらは市内外のアマチュアやプロの演奏家が多数集まりまして、町全体が音楽に包まれます。これら以外にも無形文化財に指定されている神楽ですとか、それから獅子舞ですね、これが各地で行われております。また沖縄との交流をきっかけに始まったエイサーまつりなんかでも、毎年年間を通じて市民参加型で行われているといったところでございます。

次のページをご覧ください。次は景観についてです。左の下ですね、牛島のフジといい

ますが、これは国の天然記念物に指定されておりまして、樹齢が1200年、長さが3メートルに及ぶようなフジが咲き誇りまして、外国の方々も含めて多くの観光客でにぎわっております。そのような景観で、市ではこのフジの花を市の花に指定いたしまして、右上のように日本最大規模の延長1キロメートルにもなる藤棚を整備しております。右側は大落古利根川の桜並木で、これは桜の名所として知られております。

次に7ページでございますけれども、左上が江戸時代に日光街道の宿場町として栄えた粕壁宿、その下が古利根川にかかる79メートルのモニュメントが色鮮やかにライトアップされる公園橋。また右側ですが春日部周辺のブロンズの彫刻22体を設置しております。

8ページをご覧ください。左から観光案内所である情報発信館ぷらっとかすかべ、次が市民の活動交流拠点であるふれあいキューブ、右が地元農産物の直売などを行います道の駅庄和、この道の駅では年間約60万人の方々にご利用いただいております。

次の9ページをご覧ください。左から国体などの会場として使用されている総合体育館ウイング・ハット、次が自然の中で子どもたちが遊べる児童センターエンゼル・ドーム、右側が郷土資料館で、この写真は展示品である粕壁宿の復元模型となっております。

次のページをご覧ください。春日部にはここにあります春日部甘熟梨をはじめといたしまして、四季折々で収穫体験ができる観光農園が数多くあります。

次のページ、11ページをご覧ください。次に特産品でございます。左から日本有数の生産地の麦わら帽子、次が江戸時代に日光東照宮をつくるために集まった職人が春日部に移り住みつくり始めたといわれる春日部桐箆笥と桐箱です。

次のページをご覧ください。桐を使いました押絵羽子板も春日部の特産品でありまして、毎年12月には押絵羽子板と特産品まつりが開催されております。

次のページ、13ページをご覧ください。春日部はアニメのクレヨンしんちゃんが住んでいる町として世界的にも知られております。左のぷらっとかすかべなどでは町の案内人として、また右の児童センターエンゼル・ドームなどでは、子育て応援キャラクターとして利用させていただいております。

次のページ、14ページをご覧ください。左から東武鉄道クレヨンしんちゃんのラッピングトレイン、次はクレヨンしんちゃんがラッピングされた市内を走るコミュニティーバスです。

右ですけれども、クレヨンしんちゃんのアニメの中ではしんちゃんが住む春日部に、イトーヨーカドーをもじったサトーココノカドーという架空のデパートがあるんですけれども、そこでことしの4月に1週間だけ春日部にある実際のイトーヨーカドーを、このサトーココノカドーとして改修させていただいたところ、全国からクレヨンしんちゃんのファンが集まって大盛況となりました。

次に15ページでございますけれども、こちらは右側にある施設やイベントにおける入れ込み客数の合計でございます。近年では毎年2万人ほどずつ増加傾向にあります。

次のページをご覧ください。まとめといたしまして観光の現状と今後の課題でございます。

す。本市では年間を通じまして市民参加型イベントが数多く開催されております。また内容も多彩です。さらに自然を満喫できるスポットが各地に点在しておりまして、幅広い世代が春日部を訪れる可能性があると考えております。

一方で今後の課題といたしましては、イベントが開催されてない時にも、年間を通じて来訪してもらえるような取り組みが必要となっております。また本市には伝統工芸品をはじめとする優れた物産がありますが、これらを地域ブランドとして発信する取り組み、また訪日外国人にも春日部を訪れてもらえる取り組み、さらに市内に点在する観光資源をつなぎ、連続性を持たせるといった取り組みが必要であるというふうに考えております。

このような課題に対応するため、本市といたしまして来年度からこの市役所内に観光振興に特化した組織、観光振興課を新たに設置するという事を今現在検討中でございます。

最後のページでございますけれども外郭放水路と連携した回遊性の向上についてです。集客力のある外郭放水路と春日部の中心市街地、さらに市内に点在する観光資源とをつなげまして、相互に連携させることでさらなる地域の活性化が図れるのではないかとというふうに考えているところでございます。以上で説明を終わります。どうぞよろしく願いをいたします。

篠原座長：ありがとうございます。池貝副市長のお話でございました。いろいろ拝見いたしますと春日部市もいろんなイベントがあるわけでございますが、イベント型から今度は日常いつでも見られるような臨機応変に客層に応じた見せ方、まさにこの外郭というのはその可能性を、今までのイベントとどのようにまた観点でつなげるかということも大きいのかと思うわけでございます。ありがとうございます。

この後は現場の視察になるわけでございますが、その前にきょうこれだけの委員が来られておりまして、それぞれ専門性が異なっておりますので、簡単にご専門と今回の委員会につきましての豊富とを、一言ずつ頂ければと存じます。市長からよろしく願います。

石川市長：市では民間活力を取り入れて指定管理者に一部管理を委託して、民間事業者の独自のノウハウ、アイデアを生かしてさまざまな事業を行っております。指定管理者として先ほども出ました庄和の商工会に道の駅庄和、ここでは販売方法、イベントを工夫することで、市からの委託料ゼロで運営しています。また総合体育館のウイング・ハットではプロバスケットボールチームを呼んで試合をするなど、イベントに力を入れており、東日本大震災のチャリティーマーケットを行い、多くの方々が来場しております。

指定管理者はアイデアを上手に使いながら、しっかり自分たちの魅力を出していくというふうなノウハウを持っていらっしゃると思いますので、大変ありがたいのかなというふうに思っております。

篠原座長：はい、取りあえず 1 回は簡単にご紹介をいただきたいと思います。市長、やはり市民の活動が非常に活発だと事前に伺っておりまして、今回のこうした施設がこの辺とうまくつながってくるとやはりよろしいでしょうね。

石川市長：そうですね、市でもいろいろなイベントと一緒にやっておりますけれども、そ

れが上手にコラボすることでもって、さらにパワーアップできるかなというふうに思っていますので、ぜひこの施設を生かせればと思っています。

篠原座長：ありがとうございます。続きましてNHK エンタープライズの関山様でございます。

関山委員：私はもともとテレビのディレクターからスタートして、様々な番組を経て、最近番組からイベントであるとか高精細映像を含めて「場」をどうやってつくっていくかというようなことを一種仕事としてしていますので、この施設の活用、また春日部市との連携というところをメディア的な視点から、実のあるものになるよう、お手伝いできればと思いますし、どうしたら話題になるかとか、どうやったら来たくなるかというような視点で、お話しさせていただければと思っています。

篠原座長：ありがとうございます。まさにこの空間をプロのプロデューサーの目線で見てくださいまして、また関山様は市民活動とうまくその辺をつなげる感性をお持ちでございます、非常に期待しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。続きまして東京理科大学の二瓶先生でございます。

二瓶委員：私は今理工学部土木工学科で働いていまして、こういう社会インフラをつくる基礎の勉強をやっています。専門は私は河川工学で、今も江戸川河川事務所から江戸川と中川と綾瀬川のリバーカウンセラーをさせていただいていまして、この首都圏外郭放水路も大学の授業でもう何回も拝見しています。

今回こういうお話も、1つは今、人がいっぱい来てもらうというのが趣旨だと思うのですが、それに合わせてこういう社会インフラの大事さとか、昨今、ことしも九州北部豪雨災害という非常に大きな災害が毎年のようにどこかで起こっているわけですが、ああいうことに対して関心を持っていただき、それに啓発できるような、そういうのを合わせてうまくできるとすごくいいのではないかと考えています。

篠原座長：ありがとうございます。ぜひその土木の視線から日本の技術を世界に発信するような視線も先生に大変期待をしているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

それからお待たせいたしました。通常ルーシーさんと私は呼びますのですが、いろいろな委員会、国もご担当ですけれども、NHKのビジネス英会話の講師をされておられまして、テレビでご覧になった方もおられると思うのですが、日本人より日本語もお上手で、感覚が素晴らしい。そんな前置きでどうぞルーシーさん。

ジャーマン委員：ジャーマン・インターナショナルのルーシーと申します。もともと1988年に株式会社リクルートに入社するために日本に来ました。そこから江副浩正とのお付き合いの中で、いろんな新規事業の立ち上げとか企業家としての歩み方を学びまして、2000年から外国人に特化した日本の不動産ビジネスを一緒にやりまして、多分12年間ぐらいで約4万人ぐらいの外国人のエグゼクティブの人たちと関わってきました。

そうすると初めて日本にいらっしゃるそういう英語圏の割と富裕層の人たちの嗜好が見えて、今のジャーマン・インターナショナルでは日本企業がそういう外国人とどうつなが

ればいいのか。その人たちに来てもらって消費をしてもらうためにどうすればいいのかという、その動線づくりをやらせていただいておりますので、今回こちらの場所にぜひ動線づくりに参加させていただければと思います。

篠原座長：ありがとうございます。最後になりました私でございますが、今大学で観光の講義をしておりますけれども、30年間旅行会社の現場にいました。いろいろな観光素材を流通させていくという部分、これもだいぶお客さまのニーズが変わってきておまして、まさに地域とどうやってインフラなどもつなげていけるかというふうに思います。

最近取り組んでおります、きょうは八ッ場ダムの所長さんも来られていますが、去年1年間かかりまして八ッ場ダムが世界的に今有名になるようなインフラ観光の仕掛けをつくっております。

今までのインフラ観光は5つの進化と10の目的別の見学ということで、去年6,000人だったお客さまが6万人まで今受け入れができそうだというような目標を立てておりますので、そんな視線できょうは参加をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

そんなことで百聞は一見にしかずと申しますので、これから現場にご案内をいただきたいと思っております。よろしくお願いします。

(5) 首都圏外郭放水路見学会視察後、意見交換

篠原座長：それでは第2部を始めたいと思います。委員の皆さん、おつかれさまでした。私もまだ息が整っておりませんが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

きょうはこの会議の設定、見学時間が余分にかかったようですが、4時までという設定でして、どうぞこの短い間ではありますけれども、忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思います。

それではまずこの先ほどの一部の今回の目的を含めまして、春日部市さんの取り組み等を含めて総合的にお話を頂こうと思っております。その前にこの会議の出口についてのお話を、冒頭させていただきたいと思っております。

今、国土交通省さんも非常にインフラツーリズムということでいろんな仕掛けを始めております。先ほどの資料にもあるように、全国各地でそうした取り組みが行われているわけですが、今回私が事務所長からお話を伺っているのは、過去にないような大胆な発想でこの外郭放水路を売り出していきたい、極端な話を言いますと、先ほど資料にもありましたように、迎賓館も有料で運用したりというケースがあったり、いろいろな今までのお役所が行うようなインフラの仕組みの中で何か見せようという概念ではなくて、どんどん新しい発想でご意見を頂きたい、こういうことで伺っているわけです。

従いましてそうした大きな観点から具体的にどのような活用をしていけるかというようなことをお話をいただければと思います。では市長から、どうぞ、今このような状

況でございますが。

石川市長：先ほども少し話が出ましたが、民活を使いまして、それできちっとした商売の目でもって行動を取ればいかと。うちの場合は実は今、私がしているクレヨンしんちゃんのネクタイ、さきほど話が出ましたね。イトーヨーカドーがサトーココノカドーといまして、1年で4,000本しか売れないものが、これでわずか1週間で1万2,000本、イトーヨーカドーさんで売れているのですよ。

こういうふうなアイデアを使いながら、例えばクレヨンしんちゃん、あるいは市のフジ、凧、それから民間が持っているノウハウをいろんな、1つだけではなくてコラボさせて、それで魅力を倍増していくという、そういうふういろいろなものを仕組みでやっていくと、面白みも増えてくる。

あるいはまた先ほどもありましたが、プロジェクションマッピングの中で音楽と一緒にできたら面白いと思って。そういういろんな組み合わせ、それが必要かと思っています。

篠原座長：なるほど、ありがとうございます。事務所に伺いたいのですけれども。さっきご説明の中にネックの1つとしてあったのは、職員の方が休日を含めて出勤して見学体制を組むことは非常に難易度が高いと、こういうことでしょうか。

金澤事務局長：はい、まさしくおっしゃるとおりです。やっぱり休暇が必要なので、土日まで働くのは限界があります。

篠原座長：限界があるということですね、なるほど。これを今、市長もお話があったように、ココノカドーの話ではありませんが、民間にそういうものを大胆に委託して、有料でそうしたものを運用する、こんなことも視野に入れていいわけですね。

金澤事務局長：もちろん。きょう見学会の案内をさせていただいた女性の方も、実はうちから施設の案内で業務を委託して、その会社から来ている方です。

篠原座長：委託料が国から出ているということですね。

金澤事務局長：はい。

篠原座長：これを今後は入場料を含めて事業化に回せたらいいということだと思っております。

金澤事務局長：まさしくそのとおりです。

篠原座長：ただお金をもらう以上はそれなりのものを見せなくてはなりませんので、そんな整理かと思えます。では関山さんどうでしょう、全体のご提案を。

関山委員：まず私は初めて実際に現場を拝見して、そのインパクト、素晴らしさ、価値というものは、「見ただけでおそらく伝わる」と思いました。ただメディアに関わっている人間から言いますと、どうしても素晴らしい施設というものの意義とかから入ってしまう。もちろん、この施設がいかに人々の暮らしを支えているとか、治水につながっているとかいうところは非常に大事ではあるのですが、一般の方たちにとって「大義」といいますか、大きなものから入る、説明が始まるとどうしても何ともなじめないのではないかと申しますか。

わかりやすく言うと、ストーリーの転換、まずは、面白さであるとか、ここに来たくな

る要素といったものがあるって、来場して、遊んだ後に「あ、やっぱり、ここは役に立って
いんだ」ということを実感してもらうようにする必要があるということが大前提とした方
がいいと思いました。

そのために、どういう形で行っていくのかといいますと、先ほどプロジェクションマッ
ピングのお話がありましたが、私はプロジェクションマッピングイベントを度々やらせて
いただいています、イベント一つとっても、どういう形でやるのかに応じて、いろいろ
変わってくると。

年に1回なのか、月に1度、数ヶ月に1度というように定期的にやっていくのか、また
期間、時期というものをどうするのか。地元・春日部市さんとのコラボという視点をふま
えて、春日部市さんに親和性のある季節や日程を設定したほうがいいのか、11月18日とい
う「土木の日」をベースにするのかといったところでも大きく変わってくると思います。

長くなるので1つだけジャストアイデアとして、シンプルに、あそこを遊び場にする
ということであると、例えば、あの「地下神殿」内でドローンフェスティバルのような、ド
ローンの競技会をやって、あるエリアからドローンを飛ばして、エアレースじゃないです
けれど、一番端までぐるりと回って帰ってくる時間を競う、といったことを、イベント化
してみる。であれば、一般の方が使用するエリアも限って開催できるのではないかと。

とにかく、視界が届く、あの奥まで、その広さを表現できるというところを含めて、や
っぱりメディアの方々がこの施設の意義だけではなく、面白い場所だなあと、表現したく
なる、伝えたい場所としてどうアプローチしていくかを考えていくことだと思います。
篠原座長：なるほど。ちょっと冒頭整理をしたいのですが。例えばこれを民間に委託して
ということを立て付けますと、ガイドを要請してというような話になると、基本は年間通
してその管理をお願いするという仕組みなのかと思う。

それで今、関山さんがおっしゃったみたいに、春日部市さんはいろんなイベントがあり
まして、そのイベントに合わせた日はそこで民間委託でいろんな工夫をする、プラスアル
ファその日程がつながると、こういうことでもいいかと思います。

ですから基本の考え方は年間民間のアイデアで何か回してもらっていくことを前提にし
て議論をしていただくと、こういう流れだと思います。先生いかがでしょう。

二瓶委員：今のいつ来ても見学できるようになるというのは大事なかなと思うのですけ
れども。ただ今の状況だと治水施設で入れないときは入れないという、洪水が来ると入れ
ないと、そういう状況なのが1つのボトルネックになっていると思う。

先ほども現場でもお伺いしましたがけれども、やはり少しでも入れるようなエリアをつ
くるとか、実際にああいう立坑が動いているところを、なるべく安全な場所ですばで見ら
れるようにするとか。あと立坑は結構いっぱいありますので、こちらの場所だけじゃなくて
第2から第5立坑の何かツアーとか。

あとこれはこんなにうまくいくか分からないですけども、ダムだと観光放流というの
があるわけです。観光立坑の放流というか、何かそういうものとか。ここだけにとどまら

ない、春日部市のいろんな複数の箇所も回れるものもあつたらいいのかなと。

特にああいうダイナミックに動いている、稼働している状況を、ぜひ今まさに治水のために作業をしているときになかなか現場には入れないかもしれないですが、それを何かうまく見られるような状況というか見える化するとか、というのはぜひやっていただくと、さっきの大儀は後でという話もありましたが、大儀と中間ぐらいでやって、分かりやすいのではないかなと思います。

篠原座長：なるほど、そういうことですね。今の二瓶先生のお話ですが、立坑の中というのは想像すると暗いんでしょうね、真っ暗でもない。

金澤事務所長：いや、ちゃんと点検できるようにライトもあります。

篠原座長：ライトはあるわけですね。トンネルが続いているというイメージ、こんな感じですか。これは違うか。

金澤事務所長：それはトンネルなので、立坑はちょうど入り口にグルッと周りにキャットウォークという。

篠原座長：キャットウォークになるか、そこから先生が見るって今お話で。

二瓶委員：例えばです。

篠原座長：例えばそういうことだと。そのためにはさっき所長に伺ったら、キャットウォークの強度が経年劣化を含めてもう 1 回調査しないと、フリーにはできるかどうかという問題があつて、この辺も議事にそうした強度の確認みたいなことも必要なかと思つています。あと面白いのは観光放流のようなお話がありましたが、これはどうですか。

金澤事務所長：物理的には多分可能だと思います。洪水が流入しているその瞬間に、例えば SNS に流して今入りました、見られますよと。ただ誰かが鍵を開けてちゃんと安全管理、要は安全管理なのです、全ては。

篠原座長：それはそうです。

金澤事務所長：実は調圧水槽に水がたまるとトルコの地下神殿があつて水道水、昔の冬宮の、それと同じような風景が見られますので、かなり。

篠原座長：何が見られる、もう 1 回。

金澤事務所長：地下神殿に水がたまっている。

篠原座長：地下神殿に水が。ああ、そうですね。なるほど、そうですね。

金澤事務所長：それもアイデアとしてはすごく面白いんですけども、安全管理とか誰がどう責任になるのかという、途端に行政だけだとかかなりしんどいかなという。

篠原座長：そうですね。ありがとうございます。ルーシーさん、どうぞ。

ジャーマン委員：先ほどのドローンの話はいろんな、前回拝見させていただいて思ったのは、これは日本のいわゆる技術的な最先端であるということの象徴的なものですと。

もう 1 つは世界中で起きているいろんな災害があるんですけども、日本は昔から災害がすごく多くて、日本は日常的に起きる災害とどう向き合っているかというのは、海外の人たちはすごく興味があると思う。どう対応しているかと。けれども来てもらうために先

ほどのアイデアに似ているかもしれないですけども、年に 1 回の磁石的なイベントがあったほうが良いと思っている。

磁石のように例えば渋谷にあるスクランブル交差点がありますね、それはバイオハザードとファースト・アンド・フュリアスという映画のロケ地に使われていて、日本に観光で行けば絶対 1 度はあのスクランブル交差点を見てみたいとみんな思う。

だから先ほどのドローンの話もありましたが、世界的な飛べるロボット競争みたいなものがある。日本はロボット技術もすごく進んでいるではないですか。いろんな大学とかがチームを出して年に 1 回あの空間でそういうロボットが飛ぶロボットの競争みたいなイベントをやれば、集客に頼らない形になる。放送に頼るような形のものにしたほうが、比較的キャンセルはできる。

イベントをあそこで、すごく人を集客しようと思えば、いざできないということが台風が来たりしたら絶対あり得る。人数が限られていてチームで集まると、要するに放送してくれる放送権で少しお金が入るので、例えば翌日にずれたとかであっても大きな迷惑が行かないという、リスクが比較的に低いと思う。

みんなはそれぞれの国で放送を見たり YouTube で上がった動画を見たり、一度は絶対あの場所に行ってみてみたいと思わせる何かのイベントがあればいいと思います。

私はこういうビジネスが大好きですけども、入場料をうまくできれば 1 人 3,000 円ぐらい取れるのではないかと考えていて、3,000 円で委託をするということであれば、何万人になるか分からないですけども、そういう磁石的な、いわゆる餌になるような SASUKE みたいな。SASUKE ってありますよね、あのロケ地を見に行きたいという気持ちにさせるようなものが年に 1 回でもあれば、それが一般的な集客につながったり。

最後の 1 つですけども、春日部市の良さも同時に発信すればいいなと思って。なぜかというところいろいろ見たんですけども、年中楽しめる春日部、ここは年中楽しめる技術革新の場所です。だから年中といういわゆる営業文句が使えるというのはとても強いなと思う。いつ行っても楽しめる春日部市で、その中でこの場所があって必ず見に行きたいという、そういうものができたらいいなと思いました。

最後ですが、英語化ですね、完全に英語化しないといけない。全部つくり方、さっきの階段の所での地層の説明とかもう 10 年かけてもいいと思うのですが、どうやってつくった、何の機能がある、やっぱり完全な説明の英語化が必要と思う。

そうすると香港や中国の方にも英語に通じる方がいっぱいいるので、英語を取りあえず押さえたほうが良いと思ったのと。あと Facebook、もし日本語の Facebook があれば英語の Facebook もいち早くつくって、少しずつその情報発信をしたほうが良いと思いました。そういうことをすればもっと来ると思います。

篠原座長：どうもありがとうございました。今のお話はよく最近ロケツーリズムとって、関山さんにご専門かもしれませんが、そのロケ誘致をして、その後また大変海外からも来るといって、1 つの核みたいなものをつくって日常的な見学についても、お客さまを増やして

いけるのではないかと、こういうご提案ですね。それから、Facebook の英語版、これはやはり情報としては必要ですね。

ジャーマン委員：確実に必要です。

篠原座長：確実に、なるほどね。今度そうしたやはり発信できる英語力もやっぱりつなげていくということ。これも民間の集客をする部分の仕組みの中に入れていくといいかもしれないですね。

さっき関山さん、ちょうど二瓶先生は土木工学から含めて、このインフラというものの価値を世界にという部分もあると思うのです。確認は、国交省さんとしてはこの治水というものを一般市民に理解をしていただくという、この今見学会をやっている前提の目的はそこにあると思っていいですか。

金澤事務所長：きっかけはそうですが、それに縛られて民間の発想がしぼんでしまうと本末転倒なので、そこはちゃんと捨てなければいいです。

篠原座長：捨てなければいい。そうですね。

関山委員：順番の問題だと思います。

篠原座長：私もいろいろ観光のこうした切り口をやっていると、非常にこうした技術的なもの、これはすごいなと、ここに水がたまっちゃうんだというような、そうした観点から見るお客さんもいるし、まったくそういうことは関係なくて楽しけりゃいいやという人もいるわけですね。

だから最近学生なんかと話をしているとインスタグラムというのがあって、インスタ映えというのですね、最近写真を撮って、珍しい角度で写真が撮れるという。そういうような箇所というのはこれからでもすぐいろいろやれば、面白い写真のスポットなんか撮れると思うので。その関山さんがおっしゃった身近な楽しむ転換と治水の部分、そして技術の話というのがうまく融合することが大事なんじゃないかな。分かりました。

それから今、春日部市さんの、先ほど池貝副市長のお話にもございましたように、いろいろと取り組みをされています。私が感想を申し上げますと、ほとんどこれはやはりイベントだと思うのですよ。

これはしっかりと続けていただくわけですが、これにやはりプラスして外国人観光客がこれから増えるという話は国の施策ですけれども、その増えた部分を春日部市に何か恩恵をもたらすような仕組みを考えていくことも大事だと思うのです。これは今のままだと外国人が日光に行く列車には乗っているものの、途中下車をなかなかしていただけないような環境だと思うのですよ。

この間、東武鉄道の役員と話をする機会がございまして、東武鉄道の悩みというのは何か、戦略は何かというと、やはり小田急は箱根を持っていると。箱根にするか日光にするか、外国人はいろいろ迷うときに、沿線に箱根の他にどういった付帯の見学がその沿線にあるかという、沿線間競争みたいなものが勝負だと、こういう話があるのですね。

1つは栃木市というのがあります。これは1時間ぐらいのところですよ。あそこは蔵の町で

今一生懸命町おこしで舟運なんかを動かしたり、グルメを起こしたりしています。あの辺で途中下車をさせたい、特急の切符を途中下車 OK にしよう、こういう話も今、市と進めているようです。

春日部市の今後の魅力としましては、この外郭が 1 つの大きな柱になって、そしてまたお隣の岩槻というのはひな人形が有名です、すぐそこなんですよ。その辺も広域の中でつなげていくような話。あとは、春日部の駅からここまでどうつないでいくかというような、立体的な話。こんなことを感じたわけです。

さて、どうでしょう関山さん、このようなお話を踏まえて、何か。

関山委員：そうですね、あともう 1 つは、今後、よりたくさんの方に来場していただきたい、ということであるのですから、その来場者というものをどう可視化するのも大事なかなと思っていたこと。何万人来た、というのは数字だけではなくて、「私は、あの施設に入った何人目である」というようなことを感じさせる、それはシールを貼ってもらうのかわかりませんが、来場者が、自分で貼りに行くといったアクションが 1 つの参加感につながれないかということ。

あと、ちょっとイメージ的な言い方ですが、あの美しい柱は、本当に広大なキャンパスに私は思えまして、人間の何か想像力というか、クリエイティビティをすごく刺激するようなものがあるので、あのままでもいいとのことですが、すごく乱暴なことを言うと、あの柱にアートペインティングしたりしたら面白いなと感じます。恒久的にやるか分からないですが、年に 1 回、ある一定期間を設けてアートペインティングをしてもらって、1 年後に、もう 1 回上書きをしていくとか。

ジャーマン委員：私たち、ちょっと血がつながっているかもしれないね。

篠原座長：ですよ、僕も先ほどのお話は近いなというふうに思ったんですよ。

ジャーマン委員：桜木町駅、横浜でもものすごくはやったグラフィティだったんです。そのアーティストよりストリートアートを何かあの中でやったら、私も面白いなと思いました。

関山委員：そういった考え方でやってみると面白い。私は、映像に長年関わってきましたので、プロジェクションマッピングという手法は魅力的ですけども、とはいえ映像の切なさとか儚さよりは、リアルのもの強さというものがあると思います。あれだけの巨大な構築物に、映像でその魅力を付加していこうとすると、相当に頑張らないと負けちゃうと思うので、リアルな力であそこを価値付けた方がいいのでは。

先ほどのアートペインティングの話でいうと、好き勝手にひどい絵を描かれたりすると困るので、描きたい絵の審査をやったりすることは必要ですけど。ただ、あそこをあなたの表現する場として使ってくださいといったことにすることで、国内だけではなくて海外の人たちも、この壁に世界を注目させるようなものを描いてみたい！と、強く心魅かれる人も出てくるのではないかと。

ジャーマン委員：そういうことをやったらそれもまた磁石になりますよね。

関山委員：1 日、1 回だけのイベントじゃなくて、期間をかけて開放してやってつくり上

がって行って、アート空間と化した地下神殿全体を、ドローンなり 360 度の VR で収録して、その 1 年間の証というのをアーカイブ化していくと、外郭放水路の中の空間というのが人間の想像力のまさに小宇宙になるみたいなこととか、そういったことも考えられるかなと。

ジャーマン委員：地下の神殿を飾ろうみたいな、そういうことですね。

関山委員：ですね、そういうこともできるかなと思うのです。

篠原座長：関山さん今ね、リアルの絵と映像は残念ながら弱いという話があったんですけども、これはプロジェクションマッピングでダイナミックにやったら相当あの柱が。

関山委員：美しく、新しい魅力を放つとは思いますが。

篠原座長：ということでしょうけれども。そのプロジェクションマッピングというのもいろいろな今進化があると思うのですけれども、経費的にも相当かかるのでしょうか。

関山委員：かかりますね。あれだけの空間だと 1 つのエリアだけやっても多分負けちゃうと思うのですよね。あるスペースからご覧いただくとしても、そこから見える限りの柱という柱に、上から下まで全てを多分映像で埋め尽くさないと、何となく中途半端感が。

篠原座長：インパクトが出ないと。

関山委員：はい。それをやるには相当のコストがかかると思われま。それだけでなく、私には、そういった、限られたクリエイターのもので表現されるというよりも自分があるそこに何かを残せる、関われる、というほうが現代的な感じがします。鑑賞する立場を越える、自分がその中の一員になれるというところで。

篠原座長：自分がありきになろうと。

関山委員：町づくりになのか、地域づくりに、なのかという部分で。

篠原座長：この間、春日部市の観光の方とか皆さんとお話したんですよ。その時にいろいろ音楽祭をやってらっしゃるんだそうです。音楽活動が相当市民活動にあるということなんですけれども、例えばオーケストラとかあるいは歌を歌うコーラス隊があったりと。

これもさっき所長と立ち話をしましたら、あまり大オーケストラだと響き過ぎちゃうとかあるらしいけれども、どういうものが適しているかということは調査が一応必要ですけども、市民がそこで活躍できる場になっていくというのはどうなのでしょう。

関山委員：大人数だと反響し過ぎてしまいますが、むしろそれを逆手に取って、超サラウンド音楽祭みたいな。

篠原座長：サラウンド音楽祭ね。

関山委員：もう本当にグアングアン音楽が混ざり合うようなことを前提として、場合によっては、場所を幾つか設定してやってもらうことで、音が混ざり合うことで生まれる相乗効果みたいなものの面白さとか。聴くのではなく、カラダで音をみんなを感じ合うとか。

またメディア的にいうと、クオリティーの高いものは大事なんですけれども、ある意味 mismatch が逆に言うと話題になったりということもあるので、それがネガティブなものではなくて、いいもの同士が混ざり合って新たな価値を生むということになるならば、私

むしろ閉鎖空間といいますか、あの響く空間故の特別な音響、もしかして爆音映画祭なんというのもいいかもしれないし。そういうようなことも面白いかなと思います。

篠原座長：ぜひその辺の専門的な追及も今後またご意見を頂きたいと思います。土木と違う角度からいろんなことが出ていますが、いかがでしょう。

二瓶委員：皆さんのような発想はなかなかないけれども、1つは今、下の話が多くて地下空間の話があるけれども。あれは結構上は何かもったいないというか、今グラウンドで貸与されるのですかね。あそこも何かうまく一緒に利活用するようなものがあったらいいのかなと思いました。

これもベタかもしれませんが、何か透明なガラスみたいなものがあって、下がのぞけるとか、そういうやつがあってもいいのかなという話が1つ。

あと、地下河川という分類でいくと、これだけじゃなくて例えば東京都の環七の下にもある。何かそういうものとももう少しうまくコラボレーションするとか、ダムカードではないけれども地下河川カードというので、もう少しインフラ同士をつなげるということもあるのではないかなと思うのと。

最後はぜひ交通の便を良くしていただきたいというのが、かなり初歩的ですけども、今年間3万人ぐらいですね。単に割っちゃうと平均1日100人ぐらいです。そうすると交通手段としてもなかなか厳しいのかなとも思うけれども、これを春日部市にいろいろ落としていくと考えると、そういうバスなりというのは基本的かなと思うので、そこがあると非常に基礎的な発展につながるかなと思いますけれども。

篠原座長：副所長、確か新しい路線のバスがこっちまで入るといってお話があったようですが、それは今現状どうでしょう。

佐々木副所長：若干手続き中で少し遅れているといううわさを聞いております。

篠原座長：具体的にどんな路線ですが。春日部の？

佐々木副所長：路線は春日部さんに聞かないと。

篠原座長：どういう路線？

阿部支所長：春日部駅からこちら経由で南桜井駅に行くような。

篠原座長：それは路線バスが今まで入ってこなかったものがこっちに入ってくるというような話があると。

阿部支所長：そうです、その話を今聞いているというところです。

池貝副市長：春日部駅から直接。

阿部支所長：イオンさんと。

石川市長：イオンをかってね。

池貝副市長：春日部駅にイオンがある。そこのイオンをかってということ。イオンを通ることによってイオンのお客さんもこっちに来てくれる可能性もありますので。

篠原座長：なるほど。先ほどの春日部駅に降りるフリー切符が東武で用意しても、そこから具体的に運べないといけませんね。

石川市長：そうですね。

篠原座長：でもイオンに来ている方は基本はやっぱり車で来るでしょうね。だからその辺のことも最近をよく議論しないと。ルーシーさんどうでしょう、何か総合的に。

ジャーマン委員：動線的な話ですね。私は大宮を通過して来たんですよね。大宮駅もすごく良くできていて、結構お土産の店もあったり。それで南桜井に来ました。分かりやすくして真っすぐ来られた。南桜井駅からどうやって来ればいいのかということですけど。

何かこれは全然できないと思いますけれど、江戸川で船で来られないよね。外国人にとって絶対そういうツアーみたいなもの、分かりやすさをすごく大事にするので。日本の駅はまだ外国人にとって分かりにくい部分があって、乗り換えがあたり止まる駅や、止まらない駅もある。

だから例えばどこかに集合してもらって、そこからバスなり何かで、自転車でもいいと思いますけれども、1日の春日部というものをツアーとして案内して、その1日のうちの1つがこの場所で、その季節に合わせて例えばフジを見に行くとか、何かおいしいものを食べに行くとか、みんなが連携していれば楽しいのではないかと思います。

ちょっと分かりにくいんです。今の日本はまったく日本語が読めない人たちにとっては、とてもとてもまだ分かりにくい。

篠原座長：そうですね。本当に外国人マーケットは視野に入れなくてはならないと思うけれども、まずこの日本人の部分もしっかりとまだ固まってないと思うので、そこを固めた部分を具体的に外国人の皆さんにも楽しんでいただく。

また少し角度を変える必要もあるかもしれないので、そうしたときにはまたルーシーさんのいろんな意見を伺ったりということかと思うけれども。本当に限られた時間ですが、きょういろんな角度で入り口のお話が出てきました。外国人の話もあったし。

それからクリエイターの立場からはまた大胆な活用のしかたのご提案もありました。それから二瓶先生からは、やはりこのインフラ技術のようなものというのをもっと世界中に誇れるような切り口、もっとリアルにできるという、そんな観点もぜひ入ったほうがいいでしょう。

二瓶委員：そうですね。

篠原座長：あとルーシーさんからのお話は、やはり英語の案内などはすぐにでも始めなくてはならないという提言ですね。

ジャーマン委員：もう 2,400 万人も今、全員潜在顧客ですから。だからその一部だけでも来てもらえれば。だからまだ動線がきちんとしていてる所があまりなくて、今がチャンスです。分かりやすくすれば本当に来てくれると思います。

篠原座長：お話をきょう伺いまして、市としても市民活動をもっともっと活性化させていく、それから観光的にももう一度リメイクして核をつくりたいということもよく分かってきました。

これを今までは国との話になるけれども、国は大胆に民間に委託しながらでも、まさに

365 日いろいろな場面で活用しよう、有料化しようというような話が出たわけです。今の話を踏まえると、やはりこれは民間委託をして開放していくようなことをベースに今後議論をしていくことで、この場はまずその方向でよろしいですか。

そうしないとなかなか今みたいなことが、市と国だけではできないと思いますから。ではきょうの確認としては、その大前提をベースにして今後いろいろ議論をしていくということでしょうか。

今後のスケジュールですが、せっかくこれだけの有識者のメンバーがきょうは集まっていたので、きょうの議論をベースに事務局でもう一度整理をして、もう少しこの案を具体的に書き出してみると。

今度その提言をできた段階でこのようにまた皆さんで、ブラッシュアップをしていただくと。こういうことを繰り返して、今後進めていければいいかなというふうに思うわけです。所長、どうでしょう。

金澤事務所長：まったくそのとおりだと思いますので、引き続きご指導をよろしくお願ひします。

篠原座長：それではちょうど時間 1 分前ですが、司会にお返ししたいと思います。よろしくお願ひします。

5 閉会

佐々木副所長：篠原座長ありがとうございました。それでは閉会に当たりまして江戸川河川事務所長よりごあいさつを申し上げます。

金澤事務所長：本日は委員の皆さま方におかれましては、貴重なご意見を賜りまして改めて感謝を申し上げたいと思います。本日の懇談会での議論が、外郭放水路のさらなる利用拡大の大きなきっかけになると確信しております。今後先生から話があったとおり、具体的な検討を進めていくこととしておりますので、委員の皆さま方に引き続きご意見を伺う機会があると考えております。その際に引き続き暖かくご指導のほうをお願ひします。本日はありがとうございました。

篠原座長：どうもありがとうございました。

佐々木副所長：それではこれをもちまして、首都圏外郭放水路利活用懇談会を閉会いたします。ありがとうございました。

ジャーマン委員：ありがとうございました。